

# 学びの居場所架け橋計画

## ～令和6年度 校内居場所（別室）対応指導員のモデル配置～

### 1 文京区の不登校の状況

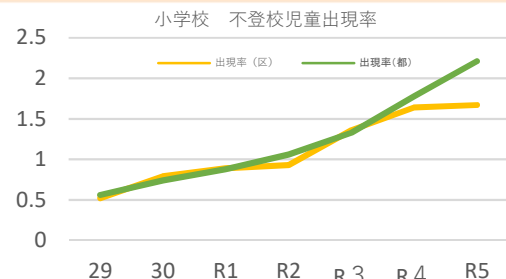
○令和5年度における不登校児童・生徒数（累積欠席日数30日以上）

#### 【小学校】

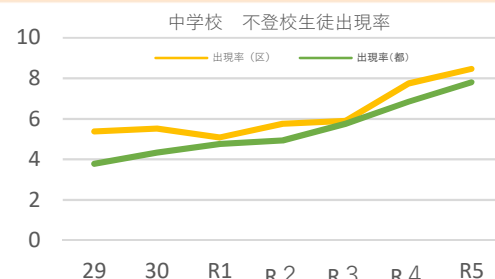
- ・令和5年度の不登校の総数は184名で、令和4年度の173名より11名増加した。
- ・年間の出現率は令和4年度の1.64%（173名）から1.67%（184名）と、0.03%上がった。

#### 【中学校】

- ・令和5年度の不登校の総数は202名で、令和4年度の183名より19名増加した。
- ・年間の出現率は令和4年度の7.74%（183名）から8.46%（202名）と、0.72%上がった。



| 年度 | 不登校児童数（人） | 区出現率：%<br>（都出現率：%） |
|----|-----------|--------------------|
| R3 | 139       | 1.36（1.33）         |
| R4 | 173       | 1.64（1.78）         |
| R5 | 184       | 1.67（2.21）         |



| 年度 | 不登校生徒数（人） | 区出現率：%<br>（都出現率：%） |
|----|-----------|--------------------|
| R3 | 135       | 5.89（5.76）         |
| R4 | 183       | 7.74（6.85）         |
| R5 | 202       | 8.46（7.8）          |

### 2 校内居場所（別室）対応指導員モデル事業

#### ＜事業概要＞

不登校児童・生徒が安心して教育を受けられるよう、学校における環境の整備の推進を図るため、令和5年4月から小・中学校のモデル7校で、学校内の居場所に、週5日1人の指導員を配置し学校内の居場所を確保することを目的として開始しました。

令和6年4月からは、モデル校を小・中学校12校まで拡充、さらに同年11月からモデル校を14校まで拡充し、各校に別室で児童・生徒に対応するための指導員を週5日配置しました。

#### ＜モデル校実績＞

##### 令和6年4月配置（12校）

小学校：青柳小学校・金富小学校・窪町小学校・千駄木小学校・  
汐見小学校・本郷小学校  
中学校：第一中学校・第八中学校・第九中学校・文林中学校・  
茗台中学校・本郷台中学校

##### 令和6年11月配置（2校）

＋ 小学校：礪川小学校・昭和小学校

#### ＜実施内容＞

指導員は、不登校の兆候がある児童・生徒への早期対応等の方策として、教室以外の校内の別室において児童・生徒の学習活動の支援、見守り、関係教員との調整等の支援をしています。

＜児童・生徒 利用者人数（人）＞ ※各学校で利用開始の確認を取った人数です。

|     | 1学期末（7月） | 2学期末（12月） | 3学期末（3月） |
|-----|----------|-----------|----------|
| 小学校 | 65       | 105       | 118      |
| 中学校 | 45       | 44        | 52       |
| 総計  | 110      | 149       | 170      |

※4月～10月：モデル校12校 ※11月～3月：モデル校14校

### 3 事例を通した成果と課題

#### 成果

- 1学期から徐々に別室利用日数を増やし、2学期には週2回のペースで継続的に登校するなど、自分のペースで学校復帰を選択できている。別室内でも友人関係を構築し自主的に学年を超えた交流を深める等、活発さも見られるようになった。
- 中学1年時には午前中、週3.4日程度登校していたが、2年生になり、ほぼ毎日登校、昼食を持参し放課後まで別室で過ごしている。教室に配布物を取りに行くことも出来るようになった。
- 別室での組織的・段階的な支援を続けていく中で、学級参加ができる教科が少しずつ増えた。気持ちが安定した日は、一日学級で過ごせるようになっていった。2学期からは、毎日学級に登校することができるようになった。

#### 課題

- 固定の空き教室がないため、毎年、場所が変わることや、別室対応指導員が一人のため、利用児童・生徒が多い場合に個別の支援が難しいことが課題である。
- 長期欠席による学習の遅れへの対応や、児童・生徒の進学に対する不安へのサポート体制の充実が課題である。
- 学級の活動や行事に興味を持つ姿が見られるようになってきたので、今後は様々な活動への参加を促し、教職員等が見守る体制を構築していくことが課題となる。